

五島・壱岐・対馬沿岸海岸保全基本計画

～交流と漁火の「しま」～



対馬市巖原町

令和4年12月

長 崎 県

はじめに

本沿岸は、五島・壱岐・対馬の島々の沿岸からなる。

五島列島は長崎県の最西部に位置し、最北の宇久島から南西に小値賀島、中通島、若松島、奈留島、久賀島、福江島の7島が連なり、それらの中心に150余の小島から成り立つ地域である。

地形は第三期中期に起こった構造運動と、その後の侵食、沈降、火山活動を経て形成されたものであり、各島は随所に溺谷地形を呈している。

本沿岸域の大部分は西海国立公園に指定され、青い海と自然豊かで複雑な海岸線が独特の美しい海岸景観を形成している。

対馬暖流の影響で漁業が盛んであり、マアジ、サバ類、ブリ類などの漁獲量が多い。

本土と大陸の間に浮かぶため、古くは遣唐使の中継点としても利用されてきた。

壱岐は長崎県の北部に位置し、玄界灘に浮かぶ緑の島であり、優れた海岸の景観と山岳景観を有し、壱岐対馬国定公園に指定されている。

本沿岸域は玄武岩の溶岩台地からなり、内陸部は比較的ゆるやかな起伏を持つ地形であることから、農業や住宅地等による開発が進んでいる。

豊かで変化に富んだ自然資源と日本の歴史を形成する代表的な文化財を有しており、大都市である福岡県に近いことから、水産業や観光資源を活かした地域振興が積極的に展開されている。

沿岸には筒城浜海水浴場など、優れた海水浴場が存在することから、ダイビング、ジェットスキーなどのマリンスポーツが盛んで、夏季の観光地として知られている。

対馬は南北約 82km、東西約 18km、面積は 705km²の細長い島で、全国の離島で第 3 位（佐渡島、奄美大島に次ぐ）の広さである。

島全体が山地形を成し、中央部に樹皮状リアス式海岸を持つ日本最大の溺谷地形の浅茅湾があり、その複雑さ、美しさは無二の海岸景観を形成していることから壱岐対馬国定公園に指定されている。

島のほとんどが山林であるため耕地が狭く、人々は主に海に生活の糧を求めており、漁業が盛んである。特にイカの漁り火や真珠の養殖は有名である。

国境の島として、古くから大陸との交通の要所であり、遣隋使や遣唐使は、壱岐・対馬を経て朝鮮半島へと向かうルートをとっていた。現在は、離島で唯一 CIQ 施設（税関、入管、検疫）を持ち、韓国との交流が今も盛んに行われている。

本資料は、これら五島・壱岐・対馬沿岸の特性を踏まえ、国が定める「海岸保全基本方針」に沿って、「防護」「環境」「利用」が調和した海岸づくりを目指し、海岸保全を実施していく上で基本となる「五島・壱岐・対馬沿岸海岸保全基本計画」を策定したものである。

目 次

第Ⅰ章 海岸の保全に関する基本理念	1
1. 基本理念	1
第Ⅱ章 海岸の保全に関する基本的な事項	3
1. 海岸保全基本計画を策定する範囲に関する事項	3
2. 海岸の現況	7
2.1 自然環境	7
2.2 海岸と人との関わり	14
2.3 海岸整備の状況	23
2.4 海岸の現況特性の総括	28
3. 海岸の防護に関する事項	31
3.1 防護の目標	31
3.2 防護に関する施策	32
4. 海岸環境の整備及び保全に関する事項	33
4.1 海岸環境の整備及び保全に関する施策	33
5. 海岸における公衆の適正な利用に関する事項	34
5.1 海岸における公衆の適正な利用に関する施策	34
第Ⅲ章 海岸保全施設の整備に関する基本的な事項	35
1. ブロック毎の特性の明確化と保全の方向性	35
1.1 海岸のブロック区分	35
1.2 ブロック特性の評価と海岸保全に対する考え方	39
2. 海岸保全施設を整備しようとする区域	55
3. 海岸保全施設の種類・規模及び配置	55
4. 海岸保全施設による受益の地域及びその現況	55
5. 海岸保全施設の維持又は修繕の方法	55
第Ⅳ章 海岸保全に関するその他重要事項	153
1. 関連計画との整合性の確保	153
2. 関係行政機関との連携調整	153
3. 地域住民の参画と情報公開	154
4. 調査研究の推進	154
5. 計画の見直し	154

第 I 章. 海岸の保全に関する基本理念

1. 基本理念

長崎県は、日本列島の最西端に位置し、北松浦半島、西彼杵半島、島原半島と五島列島、対馬島、壱岐島等大小 596 の島々等からなり、有明海、橘湾、対馬海峡、東シナ海等の海に四方を囲まれている。海岸線総延長は 4,175 km におよび我が国で第 2 位の長さを誇る海洋県である。

地形は、急峻な山地が海岸までせまり、平地が少ないため、海岸の背後には人口、資産、社会資本等が集積している。

各所に見られる入江は、天然の良港となり、古くから各地の港湾や漁港が交通の要所になっている。県内各地では多種多様な沿岸漁業や東シナ海を主な漁場とする沖合・遠洋漁業が盛んに行われている。また、大村湾や浅茅湾（対馬）の真珠、五島・壱岐・対馬沿岸、松浦沿岸をはじめとして各地におけるマダイ、ハマチ、フグなど養殖業が盛んで、我が国有数の漁業生産を誇っている。

本県の沿岸には、港湾や全国一の数を有する漁港が点在し、さらに、複雑な海岸線がつくる入江には大小さまざまな造船所がみられる。以上のように本県の沿岸は、生産・生活の場を各地で提供している。

一方、本県では、台風や冬季季節風等による高波被害を頻繁に受けている。また長崎港や有明海においては、地形特性により局部的に高潮被害が発生している。

多くの離島・半島からなる海岸は、複雑に入り込み、美しい景観を形成しており、西海国立公園、雲仙天草国立公園、壱岐対馬国定公園、玄海国定公園や 4 カ所の県立公園などに指定されている。その豊かな自然環境は人々の心を和ませ、県内外から多くの人々が訪れ、本県の重要な観光資源となっている。また、自然海岸が大半を占め、沿岸域には多くの魚類が生息する藻場が分布しており、貴重種であるカブトガニやアカウミガメなど多様な生物が生息・生育する貴重な場となっている。

古くは、平戸、五島列島、壱岐及び対馬などは、遣隋使、遣唐使や朝鮮通信使等の寄港地として、大陸との交流拠点となり、近世にあつては、平戸にポルトガル船が来航し、貿易とキリスト教の布教を行い、その後、長崎の出島において我が国唯一の貿易が認められ、大陸との架け橋としての役割を果たし、本県特有の歴史・文化を育んできた。また、多くの人々は海や海岸を海水浴場として利用しているほか、ペーロン大会・トライアスロンなどのイベント、ダイビング・ジェットスキーなどのマリンスポーツ、ブルーツーリズムなどの体験活動・学習活動等、人々の集い・憩いの場と考えている。

以上をふまえ本県における総合的な海岸保全に対し、より一層の安全確保と、良好な海岸環境の保全と整備、多様な海岸利用が適切に行われるよう、これからの海岸保全を進めるための基本理念を以下に示す。

基 本 理 念

『テーマ』

～ 四方しほうの海から人々をまもり 親しみあるさいかい西海の海岸づくり ～

- ① 人々の生命と生活を守る海岸の整備
- ② 豊かな自然環境と共生する海岸の保全と整備
- ③ 憩い・交流の場としての海岸の実現

第Ⅱ章. 海岸の保全に関する基本的な事項

1. 海岸保全基本計画を策定する範囲に関する事項

海岸保全基本計画を策定する範囲は、海岸保全基本方針に基づき図-2.1～2.3及び表-2.1に示す長崎県の五島・壱岐・対馬沿岸域（4市2町）とする。

五島・壱岐・対馬沿岸の総延長は約 2287km であり、その内海岸保全区域延長は 567km、その他（一般公共海岸等の延長）は 1745km である。海岸保全区域延長（要指定延長含む）の管理者別内訳は国土交通省 209km（水管理・国土保全局 121km、港湾局 88km）、農林水産省 358km（農村振興局 121km、水産庁 237km）となっている。

五島沿岸の総延長は約 1165km であり、その内海岸保全区域延長は 310km、その他（一般公共海岸等の延長）は 870km である。海岸保全区域延長（要指定延長含む）の管理者別内訳は国土交通省 123km（水管理・国土保全局 70km、港湾局 53km）、農林水産省 187km（農村振興局 35km、水産庁 149km）となっている。

壱岐沿岸の総延長は約 192km であり、その内海岸保全区域延長は 79km、その他（一般公共海岸等の延長）は 118km である。海岸保全区域延長（要指定延長含む）の管理者別内訳は国土交通省 38km（水管理・国土保全局 22km、港湾局 16km）、農林水産省 42km（農村振興局 16km、水産庁 25km）となっている。

対馬沿岸の総延長は約 930km であり、その内海岸保全区域延長は 178km、その他（一般公共海岸等の延長）は 757km である。海岸保全区域の管理者別内訳は国土交通省 48km（水管理・国土保全局 29km、港湾局 19km）、農林水産省 130km（農村振興局 67km、水産庁 63km）となっている。

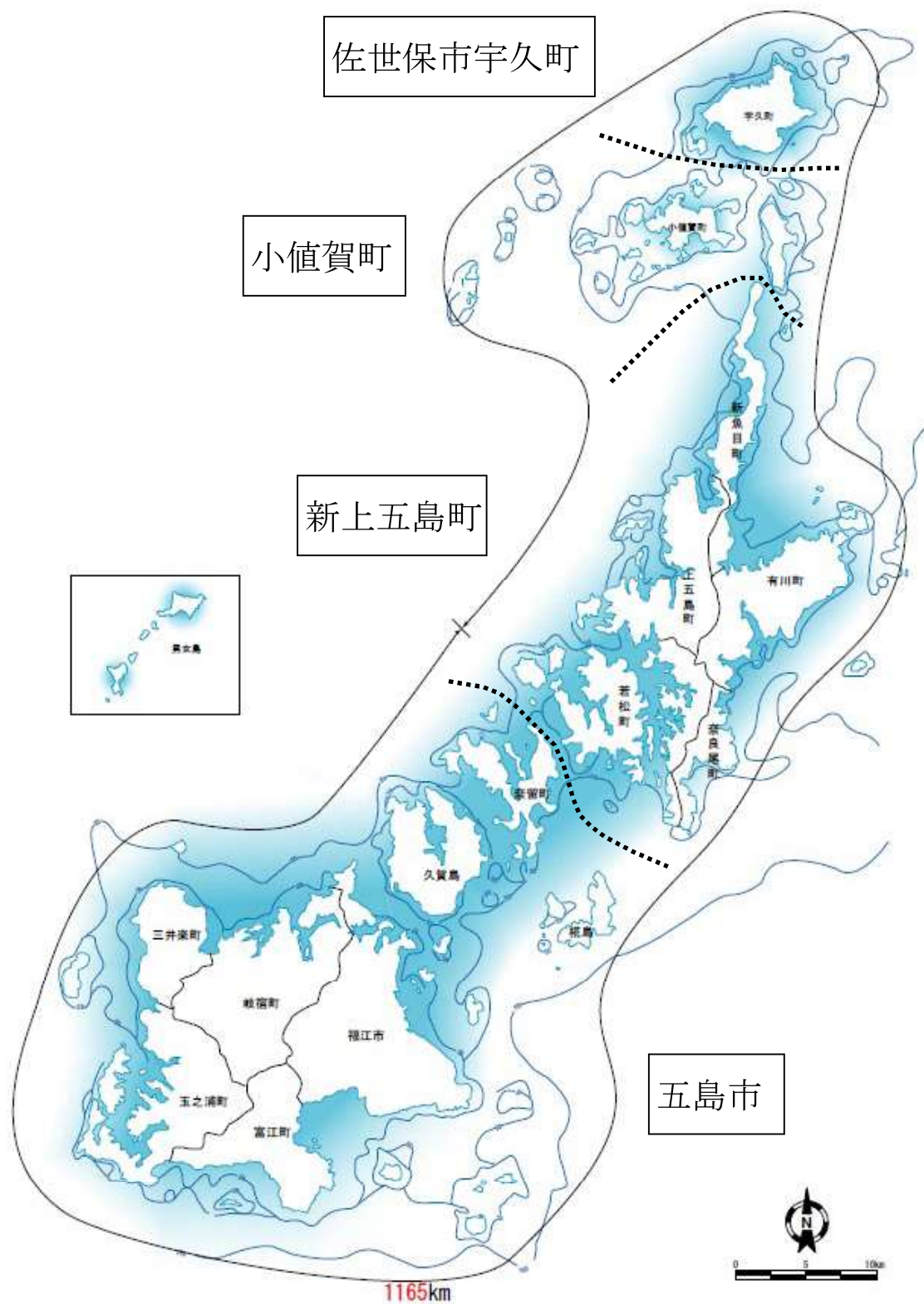


図-2.1 海岸保全基本計画を策定する範囲(五島)

沓崎市

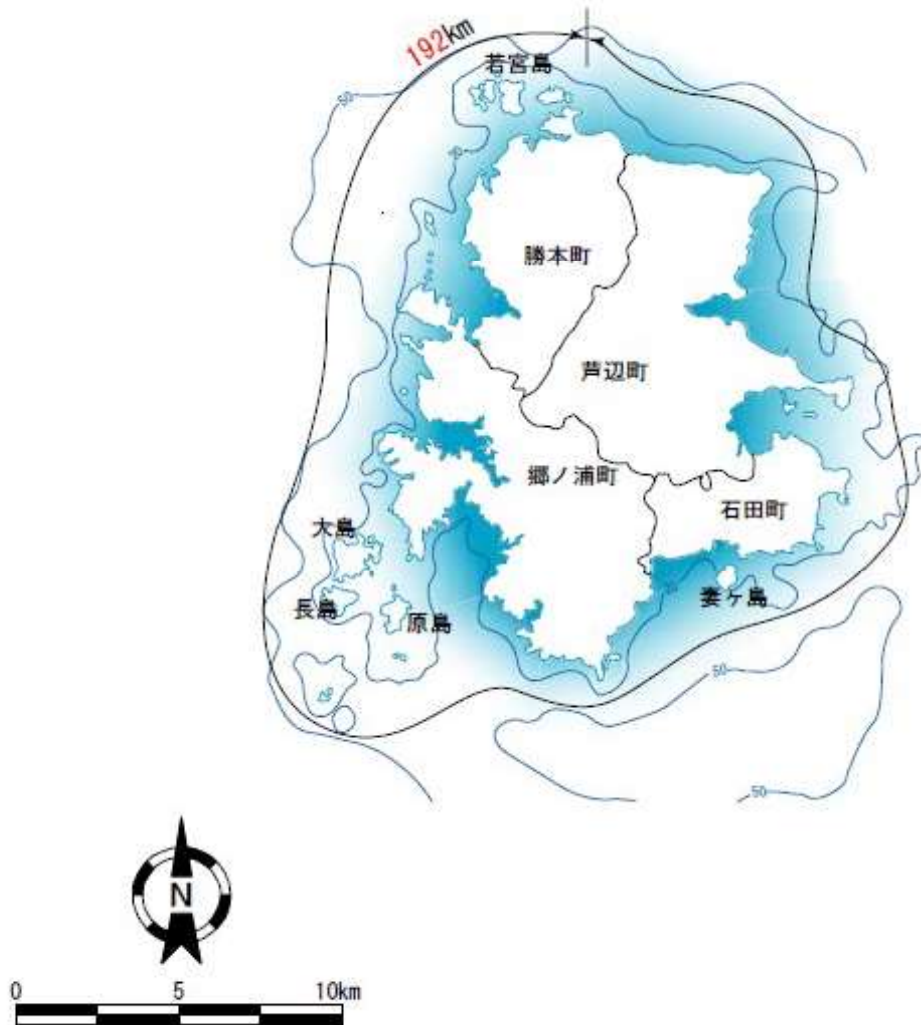


図-2.2 海岸保全基本計画を策定する範囲(沓岐)

対馬市

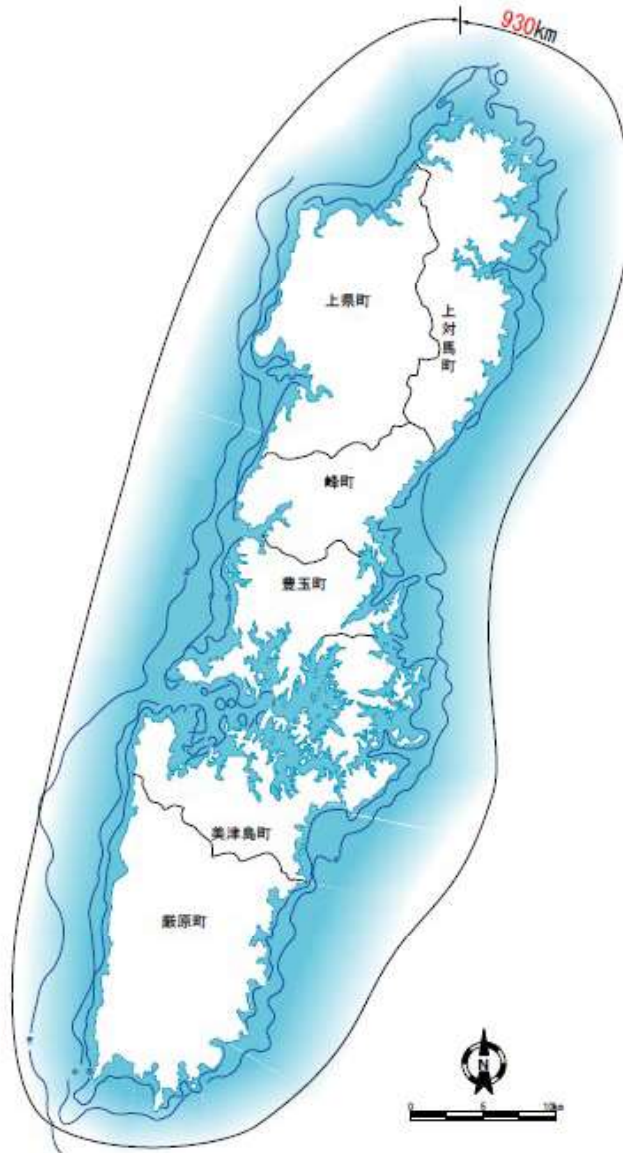


図-2.3 海岸保全基本計画を策定する範囲（対馬）

表-2.1 関連市町村一覧

4市2町	五島	2市	市	五島市、佐世保市宇久町
		2町	町	新上五島町、小値賀町
	壱岐	1市	市	壱岐市
	対馬	1市	市	対馬市

2. 海岸の現況

2.1 自然環境

(1) 地形・地質

五島

五島の地形は第三期中期に起こった構造運動とその後の侵食、沈降、火山活動を経て形成されたものであり、各島は随所に溺谷地形を呈している。また臼状火山、盾状火山など各種の火山地形も各所に見られる。

福江島の一部と宇久島、小値賀島を除く五島列島の殆どが小起伏山地で構成され、熔結凝灰岩や砂岩・泥岩(I)からなる。福江島の南東部及び西北部、佐世保市宇久町、小値賀島は岩石台地や火山山麓地(I)、小起伏火山地からなり、主に玄武岩や輝石安山岩からなる。

干潟は主に湾奥に見られるが、沿岸全体として海岸地形が急峻であるため比較的少ない。玉之浦港や三井楽漁港、日島漁港等で埋立等により減少した干潟もある。

壱岐

壱岐島は第三紀層を地質基盤として、これを玄武岩が一面に覆っている岩石台地からなり、内陸部は比較的緩やかな起伏を持つ地形である。また、島東部の河川沿いに扇状地・三角州性の低平地が見られる。玄武岩の火山活動は、流れやすい溶岩を何度も流出させ広い範囲に溶岩台地をつくる。壱岐の緩やかな丘陵地はほとんどこの玄武岩と、玄武岩類が風化をうけてできた赤みを帯びた土からできている。

干潟は主に妻ヶ島から瀬戸浦にかけての壱岐島の東部に多く見られ、芦辺漁港では埋立等により消滅した干潟もある。

対馬

対馬は島全体が山地形を成し、上島と下島の中央は主に小・中起伏山地、浅茅湾や上島北部は大・小起伏丘陵地により構成される。島西側の河川沿いには、三角州性低地が見られる。

全島に渡って厚さ5000mにも及ぶ対州層群(古第三起漸新世)とよばれる泥質岩でできている。この堆積岩の地層は島の長軸に斜交する北東-南西方向に軸をもった大きな褶曲構造を呈し、この褶曲軸の向きが、島の地形に大きく影響している。また下島の東部はホルンフェルスからなり、これから北東方向に向かって、石英斑岩、花崗岩、粗粒玄武岩などの火成岩体の貫入がある。

海岸線は地形が急峻であるため、干潟はごく一部の湾奥を除いて殆ど見られない。

(2) 気象・海象

五島

五島沿岸は、西九州海洋型の気候区分に属し、温暖多雨で、年平均気温約 16.8℃、年降水量約 2,300mm となっており、本土より比較的降水量が多い。また、冬季の北西風が卓越した地域であり、冬季の平均風速は 3.6m/s 程度である。

(出典：福江測候所資料；昭和 56 年～平成 22 年平均)

壱岐

壱岐沿岸は、日本海型の気候区分となっており、温暖多雨で、年平均気温約 15.7℃と、本土より 1℃程気温が低く、年降水量は約 1,900mm となっている。また、春季の北北東風が卓越した地域であり、春季の平均風速は 2.6m/s 程度である。

(出典：芦辺測候所資料；昭和 56 年～平成 22 年平均)

対馬

対馬沿岸は、日本海型の気候区分となっており、温暖多雨で、年平均気温約 15.8℃と、本土より 1℃程気温が低く、年降水量が約 2,200mm となっている。また、冬季の北北西風が卓越した地域であり、冬季の平均風速は 3.2m/s 程度である。

(出典：厳原測候所資料；昭和 56 年～平成 22 年平均)

その他、当沿岸の潮位は、表-2.2 に示すとおりである。

表-2.2 五島・壱岐・対馬沿岸の潮位

	既往最高潮位 H.H.W.L (m)	朔望平均満潮位 H.W.L (m)	朔望平均干潮位 L.W.L (m)	潮位差 (m)
福江港 (福江検潮所)	T. P. +1.78 H24 年 9 月	T. P. +1.28	T. P. -1.49	2.77
郷ノ浦港 (郷ノ浦港検潮所)	T. P. +1.51 S53 年 8 月	T. P. +1.12	T. P. -1.19	2.31
厳原港 (厳原検潮所)	T. P. +1.44 H15 年 9 月	T. P. +0.91	T. P. -0.89	1.80

(出典：气象台資料、国土交通省資料、海上保安庁資料)

※対馬の高さの基準は浅茅湾の平均海面である。

(3) 流入河川

五島

五島沿岸海域には、24 の二級河川が流入している。二級河川で代表的なものとしては、福江川、中須川、鱈川、一の川等がある。

壱岐

壱岐沿岸海域には、7 の二級河川が流入している。二級河川で代表的なものとしては、谷江川、幡鉾川等がある。

対馬

対馬沿岸海域には、39 の二級河川が流入している。二級河川で代表的なものとしては、佐須川、三根川、佐護川、仁田川、舟志川等がある。

(4) 水 質

五島

五島海域における水質汚濁の主要な指標であるCOD（化学的酸素要求量）で見ると、定期的な観測が実施されている当沿岸海域の環境基準点8カ所（全てA類型）のうち、殆どが環境基準に適合しており、平成26年においては全ての箇所環境基準に適合している。

（出典：平成26年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果）

また、当沿岸には水質測定を行っている海水浴場が8箇所あり、遊泳期間中の水質は、判定AA…8箇所であり、いずれも良好な水質結果となっている。

（出典：平成27年度海水浴場水質（遊泳前）調査結果について）

壱岐

壱岐海域における水質汚濁の主要な指標であるCOD（化学的酸素要求量）で見ると、定期的な観測が実施されている当沿岸海域の環境基準点3カ所（全てA類型）のうち、殆どが環境基準に適合しており、平成26年においては全ての箇所環境基準に適合している。（出典：平成26年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果）

また、当沿岸には水質測定を行っている海水浴場が6箇所あり、遊泳期間中の水質は、判定AA…6箇所であり、いずれも良好な水質結果となっている。

（出典：平成27年度海水浴場水質（遊泳前）調査結果について）

対馬

対馬海域における水質汚濁の主要な指標であるCOD（化学的酸素要求量）で見ると、定期的な観測が実施されている当沿岸海域の環境基準点5カ所（全てA類型）のうち、平成10年を除く殆どの年は環境基準に適合しており、平成26年においては全ての箇所環境基準に適合している。

（出典：平成26年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果）

また、当沿岸には水質測定を行っている海水浴場が1箇所あり、遊泳期間中の水質は、判定AAであり、良好な水質結果となっている。

（出典：平成27年度海水浴場水質（遊泳前）調査結果について）

(5) 生物相

五島

1) 植 物

五島沿岸域に生息する貴重な植物として、荒川のハマジンチョウ、奈留島皴ノ浦のハマジンチョウ群落、福江椎木山の漣痕（いずれも県指定天然記念物）が分布している。

宇久島・小値賀島周辺ではリュウノヒゲモ、ハマジンチョウ（いずれも環境庁絶滅危惧Ⅱ類）が確認されている。上五島ではヒロハマツナ、ウラギク、シバナ、ハマサジ（いずれも同Ⅱ類）が確認されている。若松島・奈留島・久賀島ではハマジンチョウ、ウラギク、シバナ、ヒロハマツナ、ハマサジ（いずれも同Ⅱ類）が確認されている。福江島ではハマナツメ（同ⅠB類）、ハマジンチョウ、シバナ（いずれも同Ⅱ類）が確認されている。男女群島ではトウカンゾウ（同ⅠB類）が確認されている。

福江島では亜熱帯植物が随所でみられ、男女群島では固有の自然を維持する地域として学術上も貴重な島となっている。

また、沿岸の殆どの範囲にアマモ場、ガラモ場、アラメ場等の藻場が見られる。

2) 動 物

五島沿岸域に生息する貴重な動物として、昆虫類は上五島にタイワンツバメシジミ（環境庁絶滅危惧Ⅰ類）、ハラビロハンミョウ（同Ⅱ類）、福江島にタイワンツバメシジミ（同Ⅰ類）、ルイスハンミョウ、ヨドシロヘリハンミョウ（ともに同Ⅱ類）が確認されている。爬虫類はアカウミガメ（同Ⅱ類）が新上五島町江ノ浜・新上五島町高井旅・五島市玉之浦町大宝海岸・五島市赤島で産卵することがこれまで確認されている他、アオウミガメ（同Ⅱ類）が奈留町西沖・東南沖、新上五島町北西沖で、タイマイ（同ⅠB類）が福江島西沖で回遊している。魚類は福江島北部にクボハゼ（同ⅠA類）が確認されている。



県教育庁学芸文化課提供

荒川のハマジンチョウ(五島市玉之浦町)



ハマナツメ

鳥類は上五島ではコシヤクシギ、ウミスズメ（ともに同ⅠA類）、オジロワシ（同ⅠB類）、トモエガモ、ヒメクロウミツバメ、ホウロクシギ、ウチヤマセンニュウ、ハヤブサ（いずれも同Ⅱ類）が確認されている。福江島ではオジロワシ（同ⅠB類）、ウチヤマセンニュウ（同Ⅱ類）が確認されている。男女群島ではコシヤクシギ、ウミスズメ（ともに同ⅠA類）、アカアシシギ、ウチヤマセンニュウ（ともに同Ⅱ類）が確認されている。

壱岐

1) 植 物

壱岐沿岸域に生息する貴重な植物として、北部の辰ノ島で辰ノ島海浜植物群落（国指定天然記念物）がある。また、勝本のハイビヤクシン群落（県指定天然記念物）、コナミキ（環境庁絶滅危惧ⅠB類）が確認されている。



県教育庁学芸文化課提供

辰ノ島海浜植物群落(壱岐市勝本町)

また、沿岸の殆どの範囲にアマモ場、ガラモ場、アラメ場等の藻場が見られる。特に壱岐島の西岸に多く見られる。

2) 動 物

壱岐沿岸域に生息する貴重な動物として、昆虫類はルイスハンミョウ（環境庁絶滅危惧Ⅱ類）が確認されている。爬虫類はアカウミガメ（同Ⅱ類）が筒城浜・錦浜・清石浜で産卵することがこれまで確認されている他、タイマイ（同ⅠB類）が島南沖を回遊している。剣尾類は壱岐市石田町沿岸部でカブトガニ（同Ⅰ類）が確認されている。

鳥類は島北部でウチヤマセンニュウ（同Ⅱ類）、島東部でウミスズメ、コシヤクシギ（ともに同ⅠA類）、ホウロクシギ、コアジサシ、トモエガモ（いずれも同Ⅱ類）が確認され、島南西部でホウロクシギ、トモエガモ（ともに同Ⅱ類）、壱岐各地でオジロワシ（同ⅠB類）、ハヤブサ（同Ⅱ類）が確認されている。

対馬

1) 植 物

対馬沿岸域に生息する貴重な植物として、北島の北岸、西岸にハマサジ（環境庁絶滅危惧Ⅱ類）、南島の西岸にシバナ（同Ⅱ類）、浅茅湾周辺に



チャボイ

カワツルモ（同ⅠB類）ヒロハマツナ、リュウノヒゲモ、チャボイ、ウラギク、シバナ（いずれも同Ⅱ類）が確認されている。

また、沿岸の殆どの範囲にガラモ場、アラメ場等の藻場が見られるが、浅茅湾にはあまり見られない。

2) 動物

対馬沿岸域に生息する貴重な動物として、昆虫類は浅茅湾周辺でヒヌマイトトンボ（環境庁絶滅危惧Ⅰ類）が確認されている。爬虫類はアカウミガメ（同Ⅱ類）が対馬市上対馬町茂木浜で産卵することがこれまで確認されている他、タイマイ（同ⅠB類）、アオウミガメ（同Ⅱ類）が南西沖で回遊している。剣尾類は浅茅湾の一部にカブトガニ（同Ⅰ類）が確認されている。

鳥類は、対馬北西部を中心にクロツラヘラサギ、コシャクシギ、ウミスズメ（いずれも同ⅠA類）、ホウロクシギ、アカアシシギ、トモエガモ、ハヤブサ（いずれも同Ⅱ類）が確認され、北島東部にツクシガモ（同ⅠB類）、南島北西部にコシャクシギ（同ⅠA類）、オジロワシ（同ⅠB類）、トモエガモ（同Ⅱ類）、南島東部にコアジサシ、トモエガモ（ともに同Ⅱ類）、対馬各地にウチヤマセンニュウ（同Ⅱ類）が確認されている。

(6) 海岸景観

五島

五島沿岸はいたるところに島と海食崖と溺れ谷でおりなす海岸美が見られる。特に東シナ海側は海崖が発達し、高さ100mをこすものもあり、五島市玉之浦町の大瀬崎断崖は福江島の観光名所となっている。

海岸線は変化に富み、島の数も極めて多い。中でも若松島と中通島の間は若松瀬戸と呼ばれ、海岸線は複雑に入り組み溺谷地形となっている。

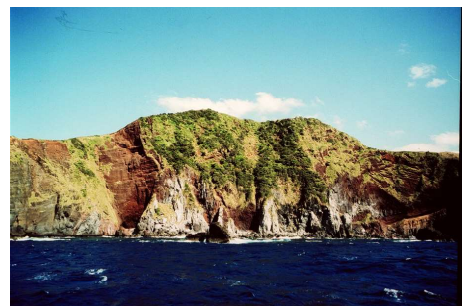
砂質海岸は宇久島の大浜とスゲ浜が比較的規模が大きく、福江島にも白良ヶ浜、大浜、香珠子、高浜など小規模なものが散在している。特に、高浜（五島市三井楽町）は日本の渚百選（平成8年）に選ばれている。

泥質海岸は河口付近や内湾にわずかに見られるのみである。

典型的な火山海岸である福江島のあぶんげ鐙瀬海岸



海食崖(大瀬崎断崖:五島市玉之浦町)



嵯峨ノ島(五島市三井楽町)

は流出した溶岩が固まったものである。

このような海岸は嵯峨ノ島、小値賀島の属島である宇々島や赤島などにも見られる。

また、五島市奈留町の未津島、鈴ノ浦などには、陸けい砂州が見られる他、ロノ夏井には、小島へと連なる千畳敷が形成されており、その小島の緑と紺碧の海、そして豪壮な千畳敷の大岩が相まって、豊かな景観美を成している。

このように独特の美しい海岸景観を形成している本沿岸域の大部分は西海国立公園及び県自然環境保全地域に指定されている。



千畳敷(五島市奈留町)

壱岐

壱岐島は第三紀層をおおって噴出した玄武岩の溶岩台地で、島全体が平坦な地形である。

本沿岸域は優れた海岸景観を有し、壱岐対馬国定公園に指定されており、左京鼻・黒崎半島の猿岩の海食崖や蛇ヶ谷・鬼の足跡の海食洞、初瀬のマグマ岩脈の溶岩流、棚江原・筒城浜の砂浜など変化に富む景観が見られる。また、日本の白砂青松百選（昭和62年）および日本の渚百選（平成8年）に選ばれた海岸線の美しい筒城浜がある。



海食洞(鬼の足跡:壱岐市郷ノ浦町)



海食崖(猿岩:壱岐市郷ノ浦町)

対馬

対馬沿岸は、標高500m前後の山並みに深い谷が刻まれ、海岸線は変化に富む。中央部に樹枝状リアス式海岸を持つ日本最大の溺谷地形の浅茅湾があり、美しい海岸景観を有することから壱岐対馬国定公園に指定されている。

対馬はほぼ全体が岩石海岸で取り囲まれ、各地に海食崖が見られる。砂質海岸はきわめて少なく、三宇田浜、茂木浜、黒島西部などに



溺谷(浅茅湾:対馬市美津島町)

小規模なものが見られるに過ぎない。その中で、三宇田浜海水浴場は天然白砂の浜で、南国を思わせるエメラルドグリーンの遠浅の海であることから日本の渚百選（平成 8 年）に選ばれている。

小茂田浜やナイラ浜などは礫が堆積した海岸で、これは各地の海岸の崖下にも見られる。

北端の鰐浦では、毎年5月になると一斉に花開いたヒトツバタゴが海岸を取り巻き、豊かな海岸美を見せる。



文化百選より
ヒトツバタゴに囲まれた海岸(対馬市上対馬町)

2.2 海岸と人との関わり

(1) 人口

五島

五島沿岸の市町村は2市2町あり、総人口は約6.8万人であり、これは県全体の約5%にあたる。

(出典：平成22年国勢調査)

そのうち、五島市の4.0万人が際だって多く、続いて新上五島町2.2万人、小値賀町0.3万人、佐世保市宇久町0.3万人と続いている。

市町別の人口推移をみると、全ての市町について減少傾向が続いている。

壱岐

壱岐市の総人口は約2.9万人であり、これは県全体の約2%にあたる。

(出典：平成22年国勢調査)

市の人口推移をみると、僅かではあるが減少傾向にある。

対馬

対馬市の総人口は約3.4万人であり、これは県全体の約2%にあたる。

(出典：平成22年国勢調査)

市の人口推移をみると、減少傾向にある。

(2) 産 業

五 島

五島の産業別就業者数は、第一次産業は 16.4%と県平均の 8.2%と比べて高い値を示している。

第二次産業は、13.5%の値を示しているが、県平均の 20.2%に比べるとやや低い値となっている。

第三次産業は 69.2%であるが、県平均の 71.6%に比べると低い値である。

この比率を沿岸全域における昭和 55 年から平成 22 年までの過去 30 年間の推移で見ると、第一次産業が 40.8%から 16.4%と 4 割程度に減少し、第二次産業は 14.1%から 13.5%、第三次産業は 45.1%から 69.2%と 1.5 倍の増加を示している。

(出典：平成 22 年国勢調査)

壱 岐

壱岐の産業別就業者数は、第一次産業は 22.6%と県平均の 8.2%と比べて高い値を示している。

第二次産業は、15.9%の値を示しているが、県平均の 20.2%に比べるとやや低い値となっている。

第三次産業は 60.8%であるが、県平均の 71.6%に比べると低い値である。

この比率を沿岸全域における昭和 55 年から平成 22 年までの過去 30 年間の推移で見ると、第一次産業が 47.7%から 22.6%と半減し、第二次産業は 13.5%から 15.9%と 1.2 倍に増加し、第三次産業は 38.8%から 60.8%と 1.5 倍の増加を示している。

(出典：平成 22 年国勢調査)

対 馬

対馬の産業別就業者数は、第一次産業は 21.6%と県平均の 8.2%と比べて極めて高い値を示している。

第二次産業は 12.3%と低い値となっている。

第三次産業は 65.9%であるが、県平均の 71.6%に比べると低い値である。

この比率を沿岸全域における昭和 55 年から平成 22 年までの過去 30 年間の推移で見ると、第一次産業が 35.7%から 21.6%と約 4 割減少し、第二次産業は 16.8%から 12.3%と約 3 割減少、第三次産業は 47.5%から 65.9%と 1.4 倍の増加を示している。

(出典：平成 22 年国勢調査)

(3) 漁業

五島

五島沿岸には42箇所の第一種漁港、12箇所の第二種漁港、2箇所の第三種漁港（奈留漁港、奈良尾漁港）、4箇所の第四種漁港が点在している。また、沿岸全域において漁業権が設定されている。

大型魚礁は沿岸のほぼ全域に設置され、人工礁も沖合いにまばらに設置されている。宇久島や小値賀島、玉之浦湾では種苗生産施設が設置され、列島東側では増殖場が造成されている。中通島東沖では人工湧昇流漁場が整備されている。

なお、有川港はかつて近海捕鯨の基地として知られていた。また、青方港は近海漁業船の避難港になっている。

なお、当沿岸域の漁業で、水揚量が多いのは土井ノ浦漁港（新上五島町）、蕨漁港（五島市）等である。



奈良尾漁港(新上五島町)

壱岐

壱岐沿岸には9箇所の第一種漁港、1箇所の第三種漁港（芦辺漁港）、1箇所の第四種漁港が点在している。また、沿岸全域において漁業権が設定されている。

北部ではブリやタイの一本釣り漁業、定置網漁業、イカ釣り漁業が行われている。大型魚礁は沿岸全域に設置され、西部沖では各種増殖場が、北部沖では人工礁が設置されている。

なお、当沿岸域の漁業で水揚量が多いのは芦辺漁港、大島漁港等である。



文化百選より
芦辺漁港（壱岐市芦辺町）

対馬

対馬沿岸には42箇所の第一種漁港、6箇所の第二種漁港、5箇所の第四種漁港が点在している。また、沿岸全域において漁業権が設定されている。

対馬市上対馬町沖ではまき網漁業、イカ釣り漁業、下島南部では定置網漁業、ブリ飼付漁業、対馬西部ではイカ釣り漁業、ブリ飼付漁業、定置網漁業などが行われている。大型魚礁は沿岸全域に設置され、下島南部、浅茅湾東部、上島北部に種苗生産施設が設置されているほか、増殖場も各地に造成されている。

なお、当沿岸域の漁業で水揚量が多いのは尾崎漁港、一重漁港等である。

(4) 交通

五島

五島沿岸には重要港湾である福江港と 13 の地方港湾がある。

下五島の福江港には、相ノ浦港（五島市奈留町）、奈良尾漁港（新上五島町）を經由して長崎港と結ぶフェリーや高速船が、また、相ノ浦港、青方港（新上五島町）、小値賀漁港（小値賀町）、平漁港（佐世保市宇久町）を經由して博多港とを結ぶフェリーが就航している。



奈良尾フェリーターミナル(新上五島町)

上五島においては有川港（新上五島町）、小値賀漁港（小値賀町）、平漁港などがフェリーや高速船で佐世保港と結ばれ、また鯛ノ浦漁港（新上五島町）が高速船で長崎港と結ばれている。

これらの航路は五島と本土間の人流・物流の両面で大きな役割を果たしている。また、列島の島々を結ぶ旅客船も多く就航している。

陸上交通は、中通島の有川から奈良尾までを結び、福江島の福江から富江までを結ぶ国道 384 号が整備されている。その他の主要道路も福江島、中通島、若松島を走っており、中通島と若松島とは橋により結ばれている。

空の玄関口として福江、有川、小値賀の 3 箇所に空港が整備されている。

壱岐

壱岐沿岸には重要港湾である郷ノ浦港と 3 つの地方港湾がある。郷ノ浦港と芦辺漁港には博多港と対馬を結ぶフェリーと高速船が寄港しており、印通寺港には佐賀県唐津市との間にフェリーが就航している。これらの航路は壱岐と本土間の人流・物流の両面で大きな役割を果たしている。

陸上交通は、石田から郷ノ浦を經由して勝本へ通じる国道 382 号が整備されている他、壱岐島の全域にわたって主要道路がはりめぐらされている。

空の玄関口として石田の 1 箇所に空港が整備されている。

対馬

対馬沿岸には重要港湾である厳原港と 9 つの地方港湾がある。その中でも厳原港と比田勝港には、壱岐（郷ノ浦港、芦辺漁港）や博多とを結ぶフェリー・高速船が就航し、人流・物流の両面で大きな役割を果たしている。また近年、両港には韓国の釜山とを結ぶ高速船が就航し、乗降客数も順調な伸びを見せており、日本と韓国の国際交流の一翼を担っている。

陸上交通は、厳原から比田勝までを結ぶ国道 382 号が整備されている他、主要道

路が島内にめぐらされている。

空の玄関口として美津島の1箇所に空港が整備されている。

(5) 歴史・文化

五島

五島列島では縄文土器が発掘されており、古代から人々が暮らしていたことが明らかとされている。8世紀初頭に編纂された「肥前国風土記」には、値嘉郷といわれた小値賀・宇久・下五島の三井楽について記されている。遣唐使は、7世紀後半には平戸から五島列島を経由しており、「蜻蛉日記」には三井楽の地について記されている。

鎌倉・室町時代になり、五島藩は1万6000石の小藩として安堵され、のち3000石の富江領を分知された。五島氏の石田城は、幕末の異国船防御のために築城されたもので、15年の歳月で完成した海城である。1867年に大政奉還により幕藩体制は解体し、1871年の廃藩置県により五島藩は長崎県に統合された。

有川湾口の鯨見山は往時の近海捕鯨基地としての繁栄を偲ばせている。

壱岐

壱岐では弥生土器が発掘されており、古代から人々が暮らしていたことが明らかとされている。中国の史書「魏志倭人伝」には対馬・壱岐の卑狗・卑奴母離のことが記されている。また、「古事記」には本州や九州とともに壱岐・対馬も大八州の一つに数えられていた。

平成5年に大陸や朝鮮との交流を示す、日本最古となる出土遺構・遺物が発見され、平成7年に「原の辻遺跡」として国の特別史跡に指定された。

壱岐・対馬は大和朝廷の朝鮮進出に際して、その前進基地の役割を果たしており、白村江の戦い(663年)に敗れた後、この地に防人がおかれていた。遣隋使や遣唐使は、壱岐・対馬を経て朝鮮半島へとむかうルートをたどっていた。

13世紀後半には元寇に際して壱岐・対馬は襲撃を受け、島民は大きな犠牲を被った。鎌倉時代から南北朝時代にかけて活躍した倭寇は壱岐・対馬を本拠地の一つとしていた。その後、壱岐は松浦氏の平戸藩のもとに入った。1867年に大政奉還により幕藩体制は解体し、1871年の廃藩置県により平戸藩は長崎県に統合された。

対馬

対馬には弥生土器など数多くの史跡・文化財が残っており、古代から人々が暮らしていたことが明らかにされている。古くより大陸との交通の要所で、その名は中継地という意味の「津の島」が語源だと言われる。中国の史書「魏志倭人伝」には対馬・壱岐の卑狗・卑奴母離のことや、対馬は山が多く田地が少ないことが記されている。「古事記」には本州や九州とともに壱岐・対馬も大八州の一つに数えられていた。大和朝廷の朝鮮進出に際して、壱岐・対馬がその前進基地の役割を果たして

おり、白村江の戦い（663年）に敗れた後、この地に防人がおかれていた。遣隋使や遣唐使は、壱岐・対馬を経て朝鮮半島へとむかうルートをとっていた。

13世紀後半には元寇に際して壱岐・対馬は襲撃を受け、島民は大きな犠牲を被った。鎌倉時代から南北朝時代にかけて活躍した倭寇は壱岐・対馬を本拠地の一つとしていた。室町時代には対馬の宗氏は日朝貿易を一手に握り、厳原の港を中心に勢力を伸ばした。

江戸時代にはいり、対馬藩の宗氏は李氏朝鮮との国交回復交渉の功により10万石の大名に格付けされた。1867年に大政奉還により幕藩体制は解体し、1871年の廃藩置県により対馬藩は厳原県となり、1872年には長崎県に統合された。

（6）海洋性レクリエーション

五島

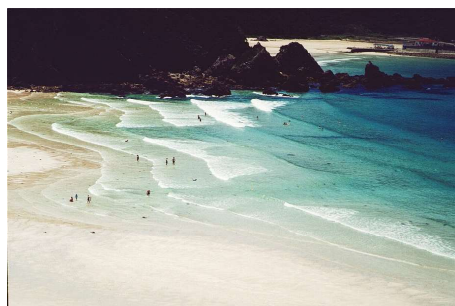
五島沿岸の観光資源は全域に分布し、美しい海を活かした海水浴場や自然景観を活かした名所が多い。特に高浜海水浴場（五島市三井楽町；平成27年利用者数約18,000人）は水質で過去3年間常時AA判定を維持しており、緑で囲まれた白銀色の砂浜であることが評価され日本の水浴場88選（平成13年）に選ばれている。また、蛤浜海水浴場（新上五島町；平成27年利用者数約12,400人）は遠浅の白い砂浜と青い松林のコントラストが美しい海水浴場であることが評価され日本の水浴場88選（平成13年）に選ばれている。

海洋性レクリエーションとしては、福江島のグラスボートでの海中観察などがある。

海と沿岸の人々との関わりを示す行事として、竜神まつり（佐世保市宇久町）、ペーロン大会（小値賀町）、十七日祭り、蛤浜で遊ぼデー（いずれも新上五島町）、五島長崎国際トライアスロン大会（バラモンキング）（五島市）、上五島トライアスロン（新上五島町）、三井楽夏まつり（五島市三井楽町）、ぎょうが崎漁火祭（五島市岐宿町）など数多くのイベントが開催されている。

壱岐

壱岐沿岸の観光資源は、豊かな自然環境を活かした海水浴場、大陸との交流を示す社寺・文化財などの名所がほぼ全域に多数存



高浜海水浴場(五島市三井楽町)



蛤浜海水浴場(新上五島町)



トライアスロン IN 五島列島(新上五島町)

在する。特に筒城浜海水浴場（平成 27 年利用者数約 24,000 人）は壱岐対馬国定公園区域内に位置し、過去 3 年間の水質測定でも AA 判定を維持し、白砂の浜が美しい弧を描いて続く海水浴場であることから日本の水浴場 88 選（平成 13 年）に選ばれている。

主な観光資源としては年間 7 万人以上が訪れる「原の辻展示館」などが挙げられるほか、壱岐で発掘されたステゴドンの化石などもある。

海洋性レクリエーションとしては、壱岐市勝本町のイルカパーク、壱岐市石田町のグラスボートでの海底観察、ダイビング、ジェットスキーなどのマリンスポーツ、イカ釣り体験ツアーなどがある。

海と沿岸の人々との関わりを示す行祭事として、春一番・風のフェスタ、ツイズビーチフェスティバル、ペーロン大会、舟ぐるう、港祭、辰ノ島フェスティバルなど、イベントが行われている。



筒城浜海水浴場(壱岐市石田町)



春一番・風のフェスタ(壱岐市郷ノ浦町)



イルカパーク(壱岐市勝本町)

対馬

対馬沿岸の観光資源は、島の海岸沿いに点在するが、特に巖原周辺に社寺・文化財が集中している。海水浴場は巖原や上対馬、美津島に分布する。特に対馬市美津島町海水浴場（平成 27 年利用者数約 7,000 人）は水質で過去 3 年間 A~AA 判定を維持しており、周囲が自然の山々に囲まれたすばらしいロケーションであることから日本の水浴場 88 選（平成 13 年）に選ばれている。



美津島町海水浴場(対馬市美津島町)

海と沿岸の人々との関わりを示す行祭事として、ヒトツバタゴ祭り、玄海つつじ

祭り、おっどん祭り、舟ぐるう、やまねこ祭、ヤクマ祭り、和多都美神社古式大祭、漁火まつりなどが行われている。

(7) 地域住民の活動

五島・壱岐・対馬沿岸域においては、地域住民等による海岸清掃、環境保全等のボランティア活動が行われている。

(8) 関連計画

関連計画としては、国が定めた「豊かな海辺の創造・海岸長期ビジョン」（平成7年；海岸長期ビジョン研究会）、「国土形成計画（海洋・海域の保全と利活用）」（平成27年）、「今後の海岸保全の基本的な考え方」提言（平成12年；今後の海岸のあり方検討委員会）等の方針・計画の他、長崎県及び沿岸の各自治体が、五島・壱岐・対馬沿岸域の有効活用を目指した基本計画、総合計画を策定している。それ以外にも総合計画や環境基本計画の主要施策に「海岸の利用・保全」、「水産資源の有効活用」等を挙げている。また、五島・壱岐・対馬では、市町村合併に伴い新たに策定された総合計画の中に、海岸保全に関わりのある事項を挙げている。

長崎県と各市町村の海岸保全に関わりのある事項を表-2.3に示す。

表-2.3 主な関連計画

自治体名	計画名	基本理念、方針等	五島・壱岐・対馬沿岸に関わる施策・目標等
長崎県	長崎県総合計画 計画チェンジ& チャレンジ 2025	・人が活躍し支えあう ・産業が育ち活力を生む ・地域がつながり安心が広がる 人・産業・地域を結び、新たな時代を 生き抜く力強い長崎県づくり	・施策の1つの「災害に強く、命を守る強靱な地域づくり」 のなかで、「地震、大雨、台風、高潮などの自然災害に備えた 施設整備など防災対策の推進」とある。
	環境基本計画	海・山・人、未来につながる環境に やさしい長崎県	施策のひとつとして、「水環境の保全」とあり、海域・河川・湖沼等 の水質保全対策の推進が挙げられている。
	離島振興計画	しまは日本の宝 明日につなぐしまづくり	施設のひとつとして「防災対策の推進」のなかに、「高潮・海岸 浸食・津波に対しては、海岸保全施設の整備を推進するととも に、既存施設の適切な維持管理に努める」とある。
	過疎地域 自立促進計画	住民生活に必要な生活・産業基盤につ いては引き続き整備を行うとともに、産業 の振興、交流・定住の促進、医療の確 保、生活交通の確保、集落対策などのソ フト事業について、創意工夫のあふれる 施策を展開し、過疎地域住民が安全、 安心に暮らせる地域社会の実現を図る。	・農林水産業のなかで、「水産基盤の整備推進」とある。 ・生活環境の整備のなかで、「風水害に強い生活環境と豊かであ るおいのある水辺づくりを推進し、河川・海岸に自然のふれあ いの場を創造するとある。
	水産業 振興基本計画	多様な人材が活躍し、環境変化に強い 持続可能な水産業と賑わいのある漁 村づくり	基本目標として、主に、 ・環境変化に強く収益性の高い魅力ある漁業経営体の 育成 ・県産水産物の国内外での販売力強化 とある。
	海岸漂着物対 策推進計画	海岸漂着物の円滑な処理の推進、海岸 漂着物の効果的な発生抑制、多様な主 体の適切な役割分担と連携の確保	目標として、「海岸漂着物の円滑な処理」、「県民生活で生じる 廃棄物の発生抑制」、「外国由来の海岸漂着物の削減」とある。
五島市	総合戦略	五島市まち・ひと・しごと創生総 合戦略	基本目標として “五島の恵を活かし、雇用を生み出す“しま”をつくる“ “安全・安心で住みやすさ日本一の“しま”をつくる“とあ る。具体的な施策のなかに、「漁港の機能向上」、「社会生活基 盤の計画的な維持管理及び改修整備」とある。
新上五島町	第2次 総合計画 (H27～H36)	つばき香り豊かな海と歴史文化を育 む自立するしま	新上五島町の将来像として、 「基幹産業である水産業の振興はもとより、海洋観光の振 興や海洋エネルギーの活用などを推進するとともに、里海づ くりにも取り組み、しまの特性を活かして今後とも「海」と の共存を進めていきます。」とある。
小値賀町	総合計画	美しい海のまち	・町民が誇れるまち、訪れる人を魅了するまち ・「災害に強いまちづくり」の推進 ・美しい自然と島の歴史を活用したまちづくりの推進。 ・「漁業所得の向上、後継者対策、藻場再生、漁業資源の活 用」等の水産業振興
佐世保市	総合計画	自然とともに市民の元気で輝くまち	10年後の望まれる姿として、 「低迷が続いていた農林水産業において、製品の販路拡大 やブランド化、エコツーリズム等を通じた観光との連携 が進む」「多様な野生動植物が生息する貴重な自然環境が 維持・保全されています。」とある。
壱岐市	総合計画	海とみどり、歴史を活かす癒しのし ま、壱岐	恵まれた資源の活用による水産業の振興 自然を生かした、環境にやさしいまちづくりとして、うる おいのある河川、海岸、公園の整備
対馬市	総合計画	アジアに発信する歴史海道都市対馬	産業の基盤整備として、 「自然環境に配慮した漁港、漁場の一体的な整備を図りま す。」 また、「洪水等の自然災害に対する河川・海岸整備の際には、 自然環境に配慮するとともに、地域住民の憩いの場・自 然体験学習の場となるよう親水性にも配慮した河川・海 岸づくりに努めます。」 とある。

2.3 海岸整備の状況

(1) 既往災害と実態

1) 高 潮

昭和 26 年 10 月の台風第 11 号（マージ台風）が九州の中央を縦走し、県下のほぼ全域で高潮の被害を受けた。また、五島では昭和 31 年の台風 9 号・台風 12 号、昭和 34 年の台風 14 号でも被害を被っている。

2) 高 波

長崎県で大波の被害を受けるのは、台風が九州の南西海上からまともに長崎県に襲来するか、または長崎県の西方海上を北上する場合である。五島では大正 3 年 6 月の台風では男女群島で 30 隻のさんご採取船が遭難し 64 名が死亡し、対馬では昭和 62 年の台風 12 号では港湾・漁港施設に被害を被った。

3) 侵 食

長崎県は台風の常襲地帯であり、また、五島・壱岐・対馬沿岸は東シナ海および対馬海峡に北西側に面した海岸があることにより、沿岸域に点在する砂浜海岸や海食崖では、台風や冬季季節風に起因する波浪により被害がみられる。

(2) 海岸事業の変遷

五 島

五島沿岸の海岸整備は、古くは昭和初頭から進められてきたが、本格的には昭和 31 年の 12 号台風と昭和 34 年の 14 号台風による甚大な被害を契機に高潮対策に対しての護岸の改良や新設による海岸整備に着手した。昭和 62 年の台風 12 号、平成 3 年の台風 19 号等による甚大な被害を受け、防災上の観点から更なる海岸整備が望まれている。海岸整備は、老朽護岸の改良、天端高不足に対する嵩上、越波対策として消波工設置等を行っている。さらに、近年の海洋性レクリエーション需要の増大に対応し、親水性護岸等の整備も行っている。

壱 岐 ・ 対 馬

壱岐・対馬沿岸における海岸整備は、概して昭和 31 年海岸法制定以降災害復旧事業により部分的になされた。本格的には 40 年代初期から一部の海岸で始まり、高潮対策としての護岸の改良や新設による海岸整備に着手した。昭和 62 年には台風 12 号による甚大な被害を受け、防災上の観点から更なる海岸整備が望まれている。海岸整備は、老朽護岸の改良、天端高不足に対する嵩上、越波対策として消波工設置等を行っている。さらに、近年の海洋性レクリエーション需要の増大に対応し、親水性護岸等の整備も行っている。

(3) 海岸線延長の内訳

五島沿岸では総延長 1165km のうち 310km、壱岐沿岸では総延長 192km のうち 79km、対馬沿岸では総延長 930km のうち 178km が海岸保全区域に指定されており、そのなかで海岸保全施設の整備が行われている。海岸保全区域の管理区分を図-2.4～2.6 に示す。

表-2.4 五島・壱岐・対馬沿岸海岸総延長の内訳

沿岸名	五島	壱岐	対馬	合計
項目	延長 (km)	延長 (km)	延長 (km)	延長 (km)
沿岸海岸総延長 (要保全海岸延長+その他海岸延長-二線堤延長)	1165	192	930	2287
要保全海岸延長	310 (15)	79 (5)	178 (5)	567 (25)
海岸保全区域延長	310 (15)	79 (5)	178 (5)	567 (25)
国土交通省				
水管理・国土保全局	70 (0)	22 (0)	29 (0)	121 (0)
港湾局	53 (0)	16 (0)	19 (1)	88 (1)
農林水産省				
農村振興局	35 (0)	16 (0)	67 (0)	121 (0)
水産庁	149 (15)	25 (5)	63 (4)	237 (24)
要指定延長	0	0	0	0
その他海岸延長 (一般公共海岸を含む)	870	118	757	1745

延長は海岸統計 (長崎県 ; H25) より抜粋
() の数値は二線堤延長を示す